

今、希望・支え合い 162名で共有した「月あかりの下で」上映会



すわか文化村第18回企画、SOSネットすわとの共催による上映会は、6月19日、一日4回上映が行われ、子ども含め162名が一緒の時間を共有しました。私は、この映画からもらえる「希望・支え合い」が、大震災でつらい目に遭っている多くの人々にとっての「希望・支え合い」に太くつながるものと思い、上映会を企画したと挨拶。上映終了後の短い交流会で、派遣切りされた人々を今も救済する活動を続けているSOSネットの皆さんなどから、「根っこに貧困がある、支え合いの中で成長する姿に感動した」などの感想が語られました。おかげさまで「大震災被災者救援のために約7万円寄付することも出来ます。寄せられた温かい感想をご紹介して報告とさせていただきます。代表理事 毛利

「月あかりの下で」感想

子ども達に教えるということ、考えさせられた映像でした。

子ども達には夢を持つとか、目標を持つとか言って、その目標があれば勉強も目的を持つことができると話しています。いろいろな家庭環境の子どもがいる中、そのようなことも考えられない子どもが多くいることが分かり、まずは、そのようなことを言う前に、子ども達の気持ちを否定しないですべて受け止めることが必要であることを学びました。

子どもから大人へ変わっていく過程がよく分かる映像でした。

(男性 1976年生まれ)

いい内容でした。

ドキュメンタリーでなくては伝わらないものですね。

知ることが大切なんです。生活の(大人の)貧しさが子ども達に犠牲を強いるのが現実で、残念だし、おかしいです。

(女性 1964年生まれ)

大変良かったと思いました。感謝です。

人は、いつ、どんな時にも、ありのままを受け入れてもらえること、そこから自分が立ち上がれる時が来るのだと思いました。

幼児期のあたたかさ、人として大切にされた体験が生きることにつながる。

とてもいい映画だと思いました。ありがとうございました。

子どもの問題行動は、すべて大人が悪いと思っています。

生まれた時は、誰もが真っ白な子どもはずなので。

定時制高校の映像を取り上げて頂いて嬉しかったです(諏訪実業定時制卒業生なので)。

一般の方々にも、決して遠い場所の話ではなく、この諏訪でも岡工の定時制が無くなって、諏訪実だけになっていることも事実で、もっと身近なこととして考えていってほしいです。

『月あかりの下で』を観て、生徒と先生の向き合う姿に感動しました。それぞれの生徒が抱えている問題に生徒同士、生徒と先生で向き合いつながっていく事の大切さを感じました。

とても感動しました。私も定時制卒業です。

どうして定時制を切り捨てたのか腹が立ちます。

素晴らしいドキュメンタリーでした。

画一的な教育制度の中に少しの光を見られたように思いました。

(男性 1965年生まれ)

山田洋次監督の「学校」は劇映画の良さ、今回はドキュメンタリーで迫力あり。

良かったです。(平野先生はじめ教師集団の大切さ)

(男性 1937年生まれ)

良かった。

昔の定時制、今の定時制とだいぶ違うと思った。今の時代、行き場のない子どもたちを受け入れて育てていく場所がなくなっていく事、とても残念。

(男性 1943年生まれ)

途中参加でしたが、定時制の学生たちが苦しみ悩みながらも先生やクラスメート達と支え合って生きる姿を通して、彼ら、彼女らが抱える社会背景、社会的問題について考えさせられました(学生たちの親の姿が知りたかった)。

「生きる希望をもらった」との言葉が印象的でした。誰もが求めているもので、それをどこで構築してもいいのですが、生きる希望が生活の中で見出せない人は生きるのが辛いですね。OT(作業療法士)として、接する患者様に「病院のリハビリで生きる希望をもらった」と言ってもらえるような仕事をしたいですね。

(男性 1975年生まれ)

よかった。

教師同士の団結がよかった。

どん底からはい上がる大切さ。感動しました。

定時制に通うお子さんの辛い現実に関胸がつまりました。
先生が、相手の立場を尊重して寄り添う姿も素晴らしいと思いました。
『心と心のつながり』
『居場所』...人は支え合って生きていると思いました。
あったかい人になりたいと私も思います。
人の変われる力を信じて、また励んでいきたいと思っています。

(女性 1958年生まれ)

若い頃、山田洋次の学校シリーズに感動を受けたが、今回はノンフィクションだけに強く感銘した。
この出演者の人達を見捨てる今の世の中に怒りを感じます。
それぞれの個性を認め、共存して生きて行ける様にしたいものです。

(男性 1948年生まれ)